

研究所研究員の研究テーマ（1990・1991年）

仲 嶺 真 信

研究のテーマ

中国南北朝仏教美術史の研究（北魏を中心として）

研究概要

中国の南北朝時代の仏教美術史において、北魏仏教美術を研究する方法はおよそ二つ考えられる。その一つは非漢民族の西域美術からの観点であり、もう一つは漢民族の南朝美術からのアプローチである。この両美術は、北魏仏教美術を理解する上では不可欠の存在である。他律的にも自律的にも両美術からの影響を様々に受けてきた北魏仏教美術においては、両者を踏まえてのある意味での混血現象を重視しなければならない。

さて、西域美術を考える場合、タクラマカン砂漠の北道上の要衝にある後期ガンダーラの西方色の濃いキジール、クムトラなどの石窟群、あるいは、南道上に位置するインド・イラン的要素の認められるホータン、ミーランなどの仏教文化、さらには、トゥルファン盆地一帯に広がる非漢民族と漢民族との混合文化などを詳しく調査する必要がある。一方、南朝美術を考える場合は、北魏に影響を及ぼしたとみなすことのできる東晋以降の宋・齊・梁などのいわゆる漢民族文化を分析しておく必要がある。

このような立場から、筆者は北魏仏教美術の研究を進めているが、その際中国国内に存在する遺跡、作品、資料など、あるいは中国国外に散在する作品や資料などを実地において調査及び追跡を行っている。

友 永 植

研究のテーマ

- ① 宋代皇帝独裁体制の研究
- ② 中国前近代における民間信仰の研究

研究概要

- ① 宋代皇帝独裁体制の研究

私はこの間、宋朝において皇帝独裁体制の確立・維持に資した幾つかの官僚集団について考察を加えてきたが、本年度はその様な考察を継続させ、特に従来研究が薄かった内官に焦点を絞り、その活動の特色を抽出したいと考えている。

- ② 中国前近代における民間信仰の研究

私は昨年、中国杭州市で開催された「紀念岳飛誕辰888周年学術研討会」に参加し、文革後の新たな局面における“岳飛崇拜”の現実を目の当たりにして、中国民衆における信仰というもの、私なりに改めて考えてみる必要を強く感じた。本年は差し当たって、前近代における岳飛崇拜の推移を史料の上で跡付けたいと考えている。

研究のテーマ

インドネシアのイスラム改革団体ムハマディアの研究

研究概要

ムハマディアの研究は、近年とみに進展しつつある。創立者のアフマド・ダフランや中部ジャワのジョクジャカルタにある中央本部に関する研究は進み、多くの点が解明されてきた。しかしながら、地方支部についての研究は、まだ殆どなされていない。したがって、ムハマディア運動における支部活動の実態究明は、焦眉の急と言えよう。

私は過去4回のインドネシア調査により、ムハマディアに関するインドネシア語の史料はかなり入手してきた。けれども、オランダ語の史料は、まだ、皆無である。なぜなら、オランダ語の史料の大半はオランダに存在している事による。しかし、最近、少しずつではあるが、マイクロフィルム化によって、その1部が日本でも所蔵されるようになった。今回、そのうちの一つ Koloniaal Verslag (植民地文書) の調査研究とコピー入手を、東京の国立国会図書館とアジア経済研究所において行った。また、アジア経済研究所にはコーネル大学(アメリカ)所蔵の1950年～60年代にインドネシアで発行された雑誌のマイクロフィルムもあり、その一部をコピーした。

研究所研究講演会

1990年度および1991年度の研究所講演会を下記のように行い、市民にも公開した。

記

日 時 1991年1月26日(土) 10時40分～12時00分
講 演 アンコールワットについて
講 師 上智大学教授、上智大学アジア文化研究所長 石澤良昭先生
会 場 別府大学3号館地下ホール

日 時 1991年11月13日(水) 10時40分～12時10分
講 演 インド祇園精舎の発掘調査とその成果
講 師 関西大学教授 網干善教先生
会 場 別府大学3号館地下ホール